

生涯學習情報誌

Life Learning

2019
Sep.
NO.349



生涯學習開發財団

「ニュータイプの時代」 あなたは価値観をアップデートできるか

■モノじゃなく意味に価値がある時代

いま、山口氏の著書『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?』が売れているという。シンポジウムでは、その理由と鍛え方の一端に触れた。

本といえば、いま海外で一番本が売れている日本人はこんまり（近藤麻理恵）さんだ。彼女が提供するの「モノをなくす」という価値。かつて暮らしを便利にするために手に入れたモノを、捨てることで心を豊かにしたい人が世界中にいるというわけだ。また最近では、東京を離れて暮らしが増えている。仕事は東京にあるので不便だが、環境や薪ストーブで暖を取る暮らしを選ぶ。どちらも近代の否定といえる。便利が豊かさや富を生む時代は終わったのだ。

従来は正解を出せる人を育てることが人材育成だった。日本の学校の仕組みがそう。不登校の子供が増えているというが、彼らは感度が高い。正解が出せても世の中では価値がないと気づいているのだ。

いまや、正解やソリューションに値段はつかない。山口氏が正解探しをやめたのは2007年。携帯電話が、iPhone以外は見分けがつかないほどよく似ていた。なぜか。それが正解だからだ。市場調査を行

ない、お客さんが望む

デザインにした結果、同じようなモノができってしまったのだ。一方アップルはほとんど市場調査をせず、自分の感性や美意識を判断の根拠とする。携帯電話の素人集団が市場を取ってしまった。

テクノロジやデザインはすぐコピーされるから、いまiPhoneと他社のスマホは見分けがつかない。iPhoneの重要なポイントの意味にある。アップルにはステイティブジブズや、西海岸発カウンスターカルチャーのような、蓄積されたストーリーが圧倒的に多く、それが信者獲得につながっている。

世の中で評価されるモノは、役に立つ（便利、安さ、効率など）、もしくは意味がある（共感、驚き、好みなど）のどちらかに分けられる。役に立たず意味もないモノは



VTSのワークで絵を観察する

山口周氏

2019年7月10日 青山学院大学 青山キャンパス

講師：山口 周 株式会社ライブニッツ 代表

1970年東京都生まれ。独立研究者、著作家、パブリックスピーカー。電通、ポストン・コンサルティング・グループなどで戦略策定、文化政策、組織開発等に従事。著書に『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?』『武器になる哲学』『ニュータイプの時代』など。慶應義塾大学文学部哲学科、同大学院文学研究科修士課程修了。神奈川県葉山町に在住。

コンビニでは、ほとんどの商品は一番売れる種類しか置かない。ところがタバコは増え続け、常時200種類以上が置いてある。タバコは「役に立たなくて意味がある」モノだからだ。顧客にとって意味があるモノはどんどん多様化する。その最たるものがアートだろう。

■当たり前を疑う力を養う

シリコンバレーのベンチャーキャピタリストであるスコット・ハートレー氏は、「テクノロジの時代は終わり、リベラルアーツに基づき世界から上手く問題を聞き出せた人が大きな価値を創出する」と書いている。わかりやすい比較として、セグウェイとairbnbをあげる。セグウェイはテクノロジはすごいが、リベラルアーツがゼロだった。airbnbは、インターネッツによって、中世の巡礼的な旅の仕組みと意味を復活させた。リベラルアーツとは、一般教養というだけでなく、当たり前を疑いそこに社会的課題を見出す力。そうでないと変革的な価値は生み出せないという。

講演の後、山口氏が提唱する、絵画を観察し、そこにあるストーリーを言語化するワークを体験した。断片的な情報や違和感などから気づきを得ることができる。

「意味があること」というのは理性的な判断ではなく官能の判断だと山口氏はいう。コーディネーターの荻宿俊文教授は、山口氏の著書に度々出てくる「直感」という言葉に触れ、教育の中で今こそ「直感力」を育てることが大事だと話した。



Chappa チャップパ (鳴り物) Narimono



♪音を聴いてみよう!

生涯学習開発財団のWEBサイトで、チャップパの音色が聴けます(解説付き)。

www.gllc.or.jp/llm/magazine/wagakki/

または、左のQRコードからどうぞ。

シンバルのことを漢字では鉦(はち・ばつ)と書く。仏教儀式で用いられ、銅鑼と組み合わせて使われることや銅製であるため銅鉦の呼び名もある。小型のものは民族芸能でも使われ、「チャップパ」と呼ぶ。他にも、手平がね、手拍子、銅拍子など、様々な名で呼ばれてきた。

チャップパは洋楽のシンバルよりは小さく、飾り紐が付けられているのが特徴。2枚の円盤をシンバルのように打ち合わせると華やかな金属音を放つが、すり合わせて風の音を表現したり、余韻の中でビリビリと震わせたり、わざと反響を押さえた鈍い音を効果的に使ったりもする。

伝統芸能では、太鼓などと一緒に、賑やかにすり打つことにより、華やかな効果を生む。脇役に見えるが、奏者が演奏や曲調を把握して表現する必要があり、重要な存在と言える。

歌舞伎の下座音楽の中でも活躍する。下座音楽とは歌舞伎の演出において、基本的に舞台下手の黒御簾(くろのみす)の中で演奏される効果音楽のこと。陰囃子、黒御簾音楽とも呼ばれる。

鳴り物はチャップパの他に、本釣鐘、音程よりもジャンという余韻に特徴がある円盤状の金属を打つ銅鑼、祭囃子で使われる真鍮製のすり鉦(かね)、歌舞伎の効果音として、寺や殺人場面にはつきものの音を出す松虫等の楽器から、樽、みくじ箱、ピーピー笛等の雑楽器まで十数種類が助奏に使われる。

奏者に聴いたその魅力

H I D E
Hide



江戸っ子気質を活かした、唄って・踊れて・打てる現代の鳴物師。1987年佐渡島を拠点とする和太鼓グループ「鼓童」に参加し、17年間活動。2004年に「鼓童」から独立し、「鳴物師 秀-HIDE-」としてソロ活動を開始。現在、日本で唯一のチャップソリストとしてライブ活動やワークショップ講師として注目を集めている。鼓童時代、日本ゴールドディスク大賞（邦楽部門）日本レコード大賞特別賞の受賞。

中に、鳴り物の一つ入れるだけで、雰囲気
がガラッと変わります。いつも、どこで入
れたら面白いかな、どう入れたらよいかを考
えています。見て聴いて楽しんでほしいです。
チャップは、箏や三味線のように伝統や系譜
がはっきり残っておらず、何十種類もの音が出
せるけど、お手本がない。手探りで音を創って
います。奏者としては、何をやっても良い、自
由度が高いところも魅力です。

佐渡の鼓童というグループに踊り手として入っ
たのですが、踊る機会が少なくて太鼓もやってい
たんです。そうした中でチャップパに出会い、独自
に奏法を開拓しているうちに、周りから評価され
るようになりました。今でこそ太鼓のグループで
よく使われている楽器ですが、当時は私のほかに
チャップパを演奏する人間はいませんでした。
チャップパが専門という感覚はなく、和太鼓もや
るし、音の出るものならば椅子でも叩きます。自
分では鳴物師と呼んでいます。わかりやすく言
うとパーカッションですね。自分で楽器も開発し
ます。高価な太鼓から、100円ショップの風鈴
やフライパンまで、自分が面白そうだな、やりた
いなと思ったなら何でも鳴らします。
●チャップパや鳴り物の魅力は？
もともと歌舞伎の下座とか見えない所で、効果
音などを表現していたのを、私が表に出してやり
始めたんです。日本は、空間美や自然美といった、
四季の表情が世界一豊かな国です。その自然描写
を楽器で表現しています。他の楽器が鳴っている

●AUN DISC情報 詳細は：www.aunj.jp/jpn/livedisc/discography.html

響 ~THE SOUNDS OF JAPAN~

大黒摩季、森崎
ウィン、タケカワユ
キヒデ、石井竜也、
上間綾乃、渡辺美
里らが参加。和楽
器の演奏にのせて
「希望と勇気」を伝
える全10曲。
3,000円（税別）



LIVE DVD! AT MITSUKOSHI THEATER

2019年2月20日、
三越劇場『Spring
Concert 2019 The
Sounds of Japan
~THIS IS AUNJ~』の
DVD映像。「ボレロ」、
映像ならではの魅力
「AUN三味線」など。
2,000円（税別）



●監修者：AUNプロフィール

井上公平・井上良平。1969年大阪にて5人兄弟の末の双子として生まれる。1988年、和太鼓集団・鬼太鼓座（おんでござ）に出会い、高校卒業と同時に入座。2000年に「AUN」として独立。2009年、邦楽界で活躍する若手を集めて「AUN」クラシック・オーケストラ」を結成。公演回数は国内外で1400回以上。子どもたちに日本文化の魅力を伝えるため、全国の小学校を訪問し、和楽器演奏と桜を植える活動もしている。



チャップパ以外にもさまざまな鳴り物がある。右手に見るのは、「鈴なり」という言葉の語源ともなった神楽鈴。能「翁」の三番叟などにも用いられる。

和楽器の
世界へ
ようこそ！
六

AJCクリエイティブコンテスト 2019表彰式

財団後援事業

7月5日 東京都美術館・上野精養軒にて
主催：AJCクリエイティブコンテスト実行委員会



↑3月に作品展示が行われた東京都美術館の講堂にて表彰式が行われた。

財団が後援をし、協賛会員の傑出アールバウトライフワークスが実行委員会を運営する「AJCクリエイティブコンテスト2019」。日本のクラフト作家の育成と奨励、社会的認知度と芸術性を高めることを目的とし、年々作品のレベルアップが目覚ましい。昨年同様、生涯学習開発財団賞も5氏に授与された。

今回印象に残ったのは大賞を受賞した岡嶋三千代氏の言葉。「私の仕事は建築関係で、現場でボルトやナットを数えるようなことも。芸術とは縁遠い私でも、コツコツやればこんな賞をいただける。多くの人の励ましになればと思う」。



→実行委員会会長・江幡哲也氏からごあいさつ。

↓壇上のプレゼンター。まずは実行委員会事務局長・菱倉英一氏から。



↑上野精養軒に移動して乾杯。上位入賞作品も展示されていた。

〈銀賞〉生涯学習開発財団賞



奈良恵子氏
クロッシェアート
部門
「神話」



〈金賞〉文部科学大臣賞



今野隆子氏
ファブリックアート
部門
「嫁ぐ日に」



〈金賞〉厚生労働大臣奨励賞



Junko.trois氏
アートジュエリー
部門
「小さなビーズの無限の可能性」



〈大賞〉内閣総理大臣賞



岡嶋三千代氏
アートジュエリー
部門
「SAKURA Blossom」



〈銀賞〉生涯学習開発財団賞



菊池清子氏
(授賞式欠席)
アートジュエリー部門
「Night sky」

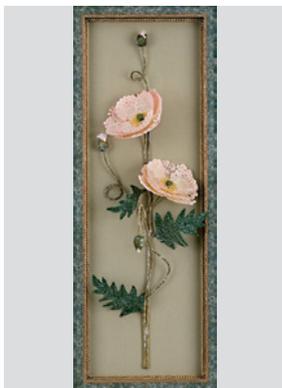
〈銀賞〉生涯学習開発財団賞



黒岩まゆ氏
人形部門
「first impression」



〈銀賞〉生涯学習開発財団賞



KOZUE氏
ペーパーアート部門
「Amapola (アマポーラ) ~luz (光) ポピー」



〈銀賞〉生涯学習開発財団賞



Tara氏
ペーパーアート部門
「大日如来 刀魂図」

